

授業者 反町 俊英 (T1)  
大岩 昭 (T2)  
場所 ひまわり学級1組

1 単元名「ことばの森～あいうえおのきを読んで～」

2 単元について

国語科の学習指導要領では、これまでの「話す・聞くこと」、「書くこと」と「読むこと」の3領域に加えて、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」が改訂に伴い新設された。本単元は、学習指導要領との関連においては「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の「言葉の特徴や決まりに関する事項」における「表記に関する事項」を中心に展開していく。

本校の特別支援学級は、児童が13名在籍しており、国語で発達段階に応じてグループ学習を行っている。本グループ「あんぱんまんグループ」は1年生2名、2年生1名、3年生3名、4年生1名の計7名である。グループ学習では、アセスメントシートを活用している。

本グループでは、今まで絵本を基本とした音読活動を行ってきた。昨年度行った「ぞうくんのさんぽ」では、劇活動に取り組んだ。また、「さつまのおいも」では、本を音読し理解を深めた後に、かるたの学習を行った。そして今年度では、「なにをたべてきたの？」で、音読に重点をおいた劇活動を行ってきた。絵本を題材とすることで、どの劇活動においても、自分の決まった役割のセリフを楽しみながら読む姿が見られた。また、かるたでは、自分達でかるたの札を作ったり、読み札の当番を楽しみにしたりと、意欲的に学習する姿が見られた。しかしながら、音読活動を行ってきたものの、句読点における間や文章に抑揚などをつけて読むことが難しく、書かれてある文章をそのまま読んでいた児童が多かった。「とくべつなことば」の単元では、濁音や半濁音が含まれる言葉の学習に取り組んだ。学習を通して、濁音等を含む言葉が書けるようになりつつあるが、濁点や半濁点等が書き抜けてしまったり、正確に音読できなかつたりすることがある。したがって作文では、濁音や半濁音、促音や拗音を含む文章を正確に書いたり、音読したりすることが難しい児童の姿が見られた。また、子どもたちの会話の中では定型文での会話が多く、文章を上手く構成することができない様子も見られた。正しく読んだり、書いたりできるようになってほしいと考えた。

そこで、本単元では「読むこと」「書くこと」と段階を踏まえて単元を構成し、学習を進めていく。単元構成の第一段階では「読むこと」に目標の重点を置く。「あいうえおのき」の絵本を基にした物語を用意し、劇活動の中で正確に音読する活動を行っていく。劇活動に必要な教具などを自ら作ることによって、役割演技に対して意欲を高めて取り組めると考える。さらに、学習の最後には、先生方を招待して発表会をすることで、単元を通して意欲をもつと共に、達成感や満足感が味わえるのではないかと考えた。

そして、第二段階では、正確に「書く」力を高めることに重点を置く。また、子どもたち一人一人の語彙を広げられるように、たくさんの文字を使った「ことばのき」を実際に作る活動に入る。最初は文字数で言葉を考え、2文字なら「ぱん」といった形で、「ことばのき」の葉っぱに文字を書き、「ことばのき」が言葉の葉であふれるようにしたい。語彙の未熟さが会話の未熟さに繋がっていると考えたので、写真や実物などを使い、文字と具体物等を一致させながら行うことで、書く力と共に語彙の幅を広げて行きたいと考える。

単元の最後には、「ようこそことばの森へ」という形で、自分たちが育てた「ことばのき」の森へ、先生方を招待して、劇の発表会や「ことばのもり」のゲームをしたいと考える。単元を通して、たくさんの語彙の中で楽しく学習した経験を積むことで、後々に学習する予定の文章表現の幅の広がりへとつなげていきたい。個に応じた手立てと目標を踏まえながら、文字として適切に表現する力を育成していきたいと考える。

3 児童の実態（在籍7名、男7名）

児童	児童の実態		単元の目標
A児	読む	平仮名を教師が一字一字示すと、拾い読みをすることができる。	○平仮名を正確に、正しく音読することができる。 ○簡単なセリフが読むことができる。
	書く	50音表の見本等を見て、ひらがなを書ける。 単語に関する理解はあまりない。	○平仮名を正確に、書くことができる。 ○単語の語彙を増やして理解へつなげることができる。
B児	読む	平仮名を読むことができるが、濁音・拗音・半濁音・促音が含まれるものだと、正確な音読は難しい。	○濁音などが含まれる文章でも、正確に音読することができる。 ○簡単な文章など、声量を考えて読むことができる。
	書く	音声から、平仮名を書くことができる。時々平仮名を忘れてしまうことがある。	○文字の形を意識して、正確に平仮名を書くことができる。 ○濁音などを含む単語を正確に書くことができる。
C児	読む	読むことを理解すれば、自ら読むことができる。濁音・拗音・半濁音が含まれるものだと、音読は難しい時もある。	○自分の読む部分や決められたところを把握し、正確に読むことができる。 ○濁音などを含む文字を正確に読むことができる。
	書く	時間がかかるものの、濁音等を含んでも正確に文字で表現することができる。	○濁音などを含む単語を、正確に表現することができる。 ○書くことで単語の知識を増やし、理解を深める事ができる。
D児	読む	平仮名や簡単な漢字を含む文章も読めるが、濁音・拗音・半濁音が含まれるものだと、適当にごまかす等、音読が難しい時もある。	○濁音などを含む文章でも、正確に音読することができる。 ○決まった部分を、最後まで読むことができる。
	書く	漢字が好きで、意欲的な一面もあるが、一人で濁音などが含まれている文章を書くのは難しい。また、集中が途切れていると、字を雑に書く傾向がある。	○濁音などを含む単語を、正確に平仮名等の文字で書き表すことができる。 ○最後まで集中して、丁寧な字を書くことができる。
E児	読む	全ての平仮名を把握していないために、正確に音読することは難しい。音読の声も明瞭になりつつあるが、まだはっきりしないものが多い。	○決められた簡単な文章を、繰り返し取り組むことで、正確に音読することができる。
	書く	平仮名を真似して書けるようになってきたが、鉛筆を回す部分を含む平仮名は書くことが難しい。50音全てを書くことは、困難である。	○文字と具体物を結び付けて、正確に文字として表現することができる。
F児	読む	読むことは上手で、平仮名や簡単な漢字を含む文章でも丁寧に読むことができる。時々抑揚をつけて読む姿も見られる。	○自分の決められたセリフや文章を、抑揚をつけて読むことができる。
	書く	簡単な部首で構成されている漢字であれば、書くことができる。時々、濁音や促音などを抜かしてしまうことがある。	○濁音などを含む単語も、正確に書き表すことができる。 ○具体物と文字を結び付け、知識を深める事ができる。

G 児	読む	漢字が混ざっているものも、読むことができる。読む文字を正確にとらえれば、気持ちを込めたりしながら、音読することができる。	○決められた文書を、抑揚等をつけて読むことができる。 ○日常的な漢字を含む文章も読むことができる。
	書く	字の形をとらえるのが難しく、漢字などはバランスを整えて書くことは困難である。漢字に限らず、平仮名や片仮名においても、各数が多いものは書くのが困難である。	○文字のバランスを考えて、正確に書くことができる。 ○具体物の知識を深め、物の名前を正確に文字で表現することができる。

4 単元の目標

○全体目標

**【読む】**・・ **第1次**

- ・文字を正確に音読し、セリフでは言葉のまとまりを意識しながら、抑揚をつけて読むことができる。
- ・劇活動を通じて、物語に親しみながら、音読活動を楽しむことができる。

**【書く】**・・ **第2次**

- ・濁音や拗音を含む単語も、言葉の表記に気をつけながら、書くことができる。

5 単元の指導計画（11時間扱い）

過程	時数	学習活動と内容	主な支援（◎）と評価（◆）
第 一 次	5	○あいうえおのきの世界へ出発！（5） ・物語を把握するために、全体の読み聞かせの後、読む部分を分担して取り組む。 ・役割を決めて、劇活動を行う。 ・セリフを言う場面では正確に音読する。 ・小道具を使いながら、自分の役割を表現する。 ・第3次では、学習発表会をすることを伝え、先生方への招待状の準備をする。	◎拡大絵本などを使い、視覚的に分かりやすいものを用意することができる。 ◎役割では、気持ちが高まるように、役割の絵カードや本人の写真を使う。 ◎子ども一人一人にあった、テキストを用意する。 ◎劇活動で使う小道具は、図工などの時間を活かしながら、本人の気持ちが高まるように、自分の役割で使う物は自分で作れるように支援する。 ◆自分のセリフの部を正確に音読することが出来たか。【読む】 ◆自分の役割を行いながら、劇活動を楽しむことができたか。【読む】
第 二 次	5	○ことばの森づくり（5） ・自分の文字と仲間の文字を合わせて言葉作りゲームを毎時間授業の最初に行う。 ・写真や具体物と文字を結び付けて、正確に表現する。 ・決められた条件の中で思いつく言葉を考える。 ・文字数が少ない言葉を考える ＜3文字より少ない言葉＞ ・「3文字」の文字数で言葉を考える	◎子どもたちのイメージが湧きやすいように、写真や具体物、実物をヒントのような形で用意する。 《支援例》 A 児…ヒントを見て音読することで、平仮名一覧表を使いながら、正確に書くことができる。 F 児…思いつかないときは、ヒントの写真や実物をみながら、書くことができる。 ◆単語や具体物に関する語彙を増やすことができ

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・文字数が多い言葉を考える ＜3文字より多い言葉＞</li> </ul>	たか。
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・濁音や半濁音を含む言葉を考える（本時）</li> </ul>	◆正しい表記で具体物を書き表すことができたか。【書く】
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・促音や拗音を含む言葉を考える</li> </ul>	
第三次	1	<p>○ようこそことばの森へ（1）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の中で取り組んできた、劇の発表会と「ことばのもり」ゲームを招待した先生方と活動する。</li> </ul>	<p>◎第一次で使った、役割の道具や台本を用意する。</p> <p>◆今まで学習してきたことを活かして、劇の発表やことばのもりのゲームを楽しみながら、先生方との親交を深める事が出来たか。</p>

## 6 部会研究テーマとの関連

### 楽しい授業を作るための教材・教具の工夫

#### <児童の興味関心を活かし、意欲化を図るための単元構成>

児童は、前年度から劇活動に取り組んできた。本単元でも、第一次では子どもたちが親しみやすいように、絵本から劇活動をすることで、子どもたちの興味関心が高まり、意欲的に学習へ取り組むことができるのではないかと考えた。第二次では、ことばの葉っぱ作りを行う。物語と関連した形で「ことばのき」を作る活動を通して、楽しみながら意欲的にことばの葉っぱ(語彙)を増やすことができるであろうと考える。そして、第三次では先生方を招待し、劇の発表会や「ことばの森」の活動をするお楽しみ会を設定する。このように、単元構成を工夫することで、単元を通して見通しを持ちながら、意欲的に学習に取り組むことができると考える。

#### <楽しい授業を作るための教材・教具の工夫>

第一次の「あいうえおのきの世界へ出発！」で行う劇活動では、自分達が楽しみながら役割を演じることができるよう、劇で使用する道具は子どもたちが自ら作れる時間を設定した。また、第二次「ことばの森づくり」の導入では、毎時間「もうじゅうがり」のゲームを活かした「ことばのもり」の歌に合わせて、ゲーム的な要素を含む学習に取り組む。日常生活において関連性の高い言葉を、友達と協力しながら1つの言葉を作ることで、ゲームを楽しみながらことば作りの学習に参加できると考える。また、ことばの葉っぱ作りでは、楽しく学習が出来るように、どちらのグループ学習でも、子どもたちが好きなクイズ形式の活動を取り入れた。さらに、出来上がったことば(語彙)を葉っぱに書き、視覚的に分かりやすい形で、葉っぱが増えていくのを楽しみに思いながら学習できると考える。毎時間の学習を楽しみにできるように、出来上がっていく「ことばのき」は、教室内や廊下等に掲示し、日常的に見ることができるようにする。

#### <一人一人に合わせた課題の設定の工夫>

第一次では、物語の想像力が乏しい児童のために、色つきのイラストとセリフの部分には顔写真入りの台本を用意する。また、自分の役のセリフに注目がいくように、役ごとに文字を色分ける。それぞれの課題に合わせて工夫することで、「読む」楽しさを感じながら意欲的に学習に参加できるのではないかと考えた。

第二次では、チームティーチングの形を活かしながら発達段階別のグループに分かれて学習し、一人一人に合った課題に取り組むことができるように、実態に応じた個別のワークシートを用意する。平仮名を書くことを目標としている場合には、点線で平仮名をあらかじめ書いておき、なぞり字の形で用意する。また、まだ平仮名を正確に書くことが難しい児童には、字が書きやすい大きさのものを用意する。字の形を上手くとらえることができない児童には、マス目があるものを用意する。字の形を意識して書くことを目標とする場合には、片仮名や平仮名の文字一覧表を用意する。それぞれの発達段階に応じたグループ分けと個々に応じた手立てを組むことが、適切に表現する部分である「書く」力の育成とできたときの喜びと達成感を伴う楽しい授業に繋がっていくと考えた。

7 本時の指導

(1) 目標

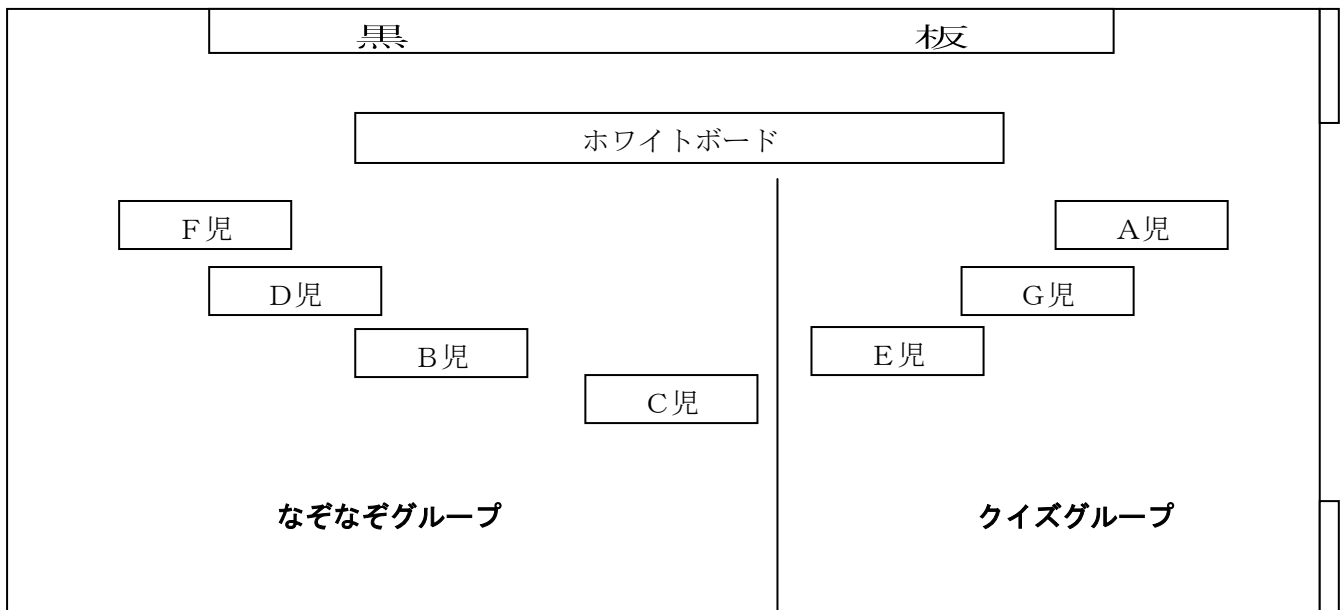
○全体目標

- ・具体物を認識して、文字として正確に表現することができる。……………【書く】

○個別の目標

《クイズグループ》	
A児	平仮名一覧表や音声言語を参考にしながら、正確に具体物の名前を書くことができる。
E児	文字カードと平仮名のマッチングや、点線をなぞることができる。
G児	文字、点や丸などを飛ばすことなく、書き表すことができる。
《なぞなぞグループ》	
B児	文字一覧表を使って、字の形を意識しながら正しく表記することができる。
C児	片仮名を使って、正確に具体物の名前を書くことができる。
D児	濁音や半濁音を含む表記の際に、読み返すことで自ら間違いを訂正することができる。
F児	濁音や半濁音が入る表現でも、片仮名と平仮名を分けながら正確に表記することができる。

(3) 配置図



(3) 展開 (9 / 11 時間)

時配	学習活動と内容	教師の支援 (○) 評価 (◆) 手立て (●)	資料・教具
2	1. 前時に学習を振り返りながら、文字と具体物のカード合わせをする。	<p>○「同じ」という概念を使って、絵と平仮名や片仮名などのマッチングを実態に応じて支援していく。</p> <p>●平仮名や片仮名で書かれているカードと、具体物のマッチングができるように、写真を用意する。写真の裏には、ヒントとして具体物の名前を平仮名や片仮名で書いておく。(B、C、D、F、G児)</p> <p>●具体物の写真を持ってこられるように、平仮名を教師と共に音読し、平仮名を確認する。(A、E児)</p>	絵カード 文字カード
15	<p>2. 「ことばのもり」の歌を歌いながら、言葉作りを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ルールを全員で確認する。</li> <li>・当番の人がカードを引く。</li> <li>・写真カードを見て、その名前を落している文字の葉っぱの中から選んで、言葉を作る。</li> </ul> <p>※赤箱…食べ物や飲み物 青箱…学校にある物 桃箱…人の名前</p>	<p>○「ことばのもり」の歌詞は、拡大して見やすいようにホワイトボードに掲示する。</p> <p>○T1は、全体を把握し自らできるように声をかけたり、ヒントコーナーへ促したりする。</p> <p>○T2は、言葉が思いつかない児童のために、ヒントコーナーでヒントを伝えたりする。</p> <p>◆正確な文字を選らんで、具体物や人の名前を作ることができたか。</p> <p>●仲間と協力して言葉が作れるように助言をする。(D、F、G児)</p> <p>●「ことばのもり」の歌詞やルールが視覚的にわかりやすいように、拡大したものを掲示する。(G、C、A、E児)</p>	拡大歌詞 ことばの森 文字が書かれた文字カード マット
ことばの森を育てよう～濁音や半濁音を含む言葉～			
20	<p>3. 本時で学習する濁音を確認した後に、グループに分かれて、ことばの葉っぱ作りをする。</p> <p>&lt;なぞなぞグループ&gt; B,C,D,F児 ①具体物の名前で空欄を含む葉っぱを引きたい人が引いてみんなに見せる。 ②当たった人はなぞなぞの答えをことばの葉っぱに書いていく。 ③答えが分からない場合は、ヒントを聞く。 ④引かなかった人も答えをプリントに書く。</p> <p>&lt;クイズグループ&gt; A,E,G児 ①写真を見る。 ②写真に書かれてある物の名前と同じ文字カードを集めた後に、それぞれの葉っぱに記入する。 ③答えが分からない場合は、写真の裏に書かれてある物の名前を見て、葉っぱに書き写す。</p>	<p>○T1はなぞなぞグループ、T2はクイズグループにつく。</p> <p>○言葉思いつかない児童のために、写真等のヒントを用意しておく。(なぞなぞグループ)</p> <p>○言葉を書いていく葉っぱは、文字が書きやすい大きさのものを用意する。</p> <p>○写真の裏に具体物の名前を書いておく。(クイズグループ)</p> <p>◆具体物を認識して、文字を正確に表記することができたか。【書く】</p> <p>●字の形を意識して書けるように、手元には文字一覧表を用意する。(B、C、G児)</p> <p>●この葉は文字が書きやすい大きさを用意し、平仮名を中心のなぞり字や具体物の言葉が書けるように、平仮名一覧表を用意する。(A、E児)</p> <p>●濁音や半濁音の点や丸が書き忘れていた場合は、読み直すように声かけする。(D、F児)</p>	平仮名カード あいうえおのきがあることばの森 ことばの葉 マット 写真 平仮名一覧表 片仮名一覧表

6	<p>4. グループごとに、本時で見つけたことばの葉の確認の後、あいうえおのきに貼っていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一人一人見つけることができたこの葉の音読をし、本時の中で見つける事ができた言葉を全員で確認する。</li> </ul>	<p>○葉っぱが貼りやすいように、木には両面テープを貼っておく。</p> <p>○自分達で木の葉っぱを増やして木を育てている実感がもてるように、一度葉っぱ見やすい場所に置き最後に全員で数える。</p> <p>◆濁音や半濁音等の文字を理解して、正確に音読することができたか。</p>	<p>ホワイトボード ことばの木</p>
2	<p>5. 本時の学習のまとめをする。</p>	<p>○次時の学習への意欲が高まるように、今までみんなで育ててきたことばの木の成長をグループ全体で確認する。</p> <p>○今までの学習の成果を確認し、姿勢よく終わりの挨拶ができるように声かけする。</p>	

アセスメントシート

【書く】・・・第二次 目標

項目	A	E	G	B	C	D	F
散文とは違う意識で詩を書くことができる。 (うったえたこと・うったえたいこと・つぶやいたこと・思わず叫んだことを書く。心に強く残っている出来事だけを中心に書く。心に感じた場面を写すように書く。気持ちにあった言葉を選んで書く。)							
かなり長い期間にわたることについて、まとめて説明するように書くことができる。 (です。ます。体で)							
段落意識を働かせて書くことができる。							
書いたものを読み返し、誤りを直すことができる。							
書く題材を選び、はじめ・なか・おわりを意識して書くことができる。							
ある日の出来事について、順序よく、また自分の思ったことも入れて書くことができる。							
会話にカギをつけて書くことができる。							
1つのできごとをとらえて、したとおり・あったとおりに「・・・ました。」と書くことができる。							
句読点をうつことができる。			△				△
自分の体験をいくつかのセンテンスで書くことができる。			△			○	△
平仮名で、主述の整った短い文を話すように書くことができる。			○			○	○
漢字が 200 字以上書ける。			×			×	×
漢字が 100 字以上書ける。			×			△	△
漢字が 50 字以上書ける。			△			○	○
漢字が 10 字以上書ける。			○			○	○
2画以上の漢字をいくつか書くことができる。			○		△	○	○
1、2画の漢字を書くことができる。			○	△	○	○	○
長音の混じった、平仮名や片仮名の単語が書ける。			△	△	○	△	△
促音・拗音・拗長音・拗促音を含んだ2音節以上の片仮名の単語を書くことができる。			△	△	△	△	△
直音2音節以上の片仮名の単語が書ける。			○	△	△	○	○
2筆書き以上の片仮名が自分で書ける。			○	○	○	○	○
1筆書きの片仮名が自分で書ける。			○	○	○	○	○
2筆書き以上の片仮名がなぞれる。			○	○	○	○	○
1筆書きの片仮名がなぞれる。			○	○	○	○	○
促音・拗音・拗長音・拗促音を含んだ3音節以上の単語が平仮名で書くことができる。	△		△	△	△	△	△
直音2音節以上の平仮名の単語が書ける。	△	△		○	○		
2筆書き以上の平仮名が自分で書ける。	△	△		○	○		
1筆書きの平仮名が自分で書ける。	○	△		○	○		
2筆書き以上の平仮名がなぞれる。	○	○					
1筆書きの平仮名がなぞれる。	○	○					
○□△が書ける	○	○					
鉛筆で直線や曲線の上をなぞることができる。	○	○					
点から点まで線をなぞることができる。	○	○					
鉛筆・クレヨン・サインペンなどをもってなぞり書きをすることができる。	○	○					



【読む】・・・第一次 目標

項目	A	E	G	B	C	D	F
平仮名や漢字が混じった物語を読んで、楽しんで感想を言うことができる。							
漢字が 200 字以上読める。						×	×
漢字が 100 字以上読める。			×			△	△
漢字が 50 字以上読める。			△	×		○	○
漢字が 10 字ほど読める。			○	○		○	○
やや長文の作品を楽しんで読み、また感想や意見を持つことができる。			×	△		×	×
やや長文の物語や説明文が楽しんで読め、書いていることを理解できる。			○	△		△	△
やさしい物語や説明文が楽しんで読める。			○	○		○	○
平仮名・片仮名・漢字交じりの文章が読めて、書いてあることが分かる。			○	×	×	△	△
いくつかの漢字が読めて、その指している事がらわかる。			○	△	△	△	△
いくつかのセンテンスで書かれてある文書が読め、書いてあることがわかる。			○	○	△	△	△
主語と述語が整った簡単な文が、文として読め、書いてあることが分かる。			○	○	△	○	△
片仮名の促音・拗音・拗長音と拗促音が読める。			△	×	○	△	○
片仮名の長音が正しく読める。			○	△	○	○	○
片仮名の清音・濁音・半濁音がみんな読める。			○	×	○	○	○
3 音節以上の片仮名の単語が、語として読めて、指している意味を理解している。			○	△	○	△	○
片仮名の清音の大部分と濁音・半濁音の一部が読める。			○	△	○	○	○
片仮名の 2 音節の単語が語として読めて、指している意味を理解している。			○	○	○	○	○
片仮名の清音が半分くらい読める。			○	△	○	○	○
いくつかの片仮名が読める。			○	○	○	○	○
助詞とその清音を区別して読むことができる。			○	△	△	○	○
平仮名の促音・拗音・拗長音・拗促音などの合成語が読める。	×		○	○		○	○
平仮名の促音・拗音・拗長音・拗促音が大分読める。	×		○	○		○	○
平仮名の長音が正しく読める。	△		○	○		○	○
平仮名の清音・濁音・半濁音がみんな読める。	×		○	○		○	○
3 音節以上の単語が語として読め、その語の指している意味がわかる。	△			△			
平仮名の清音の大部分と濁音・半濁音の一部が読める。	△	×		△			
知っている平仮名の 2 音節の単語が語として読め、その語の指している物が分かる。	△	△		○			
平仮名の清音が半分くらい、読める。	○	△					
いくつかの平仮名が読める		○					

※評価に関して

- ・・・項目を達成できる。
- △・・・項目を達成できない場合もある。
- ×・・・項目を達成できない。